

とけあう屋根 の 建築

大きな屋根の下で、訪れた人々が思い思いの時間を過ごしながらも人との関係性や街への広がりや内包する「集う」ための建築を考えた。街並みを分断してしまう造成を「小さな段差の集合体」へと転換することで、周辺環境と緩やかに連続する領域を生み出し、街や人々の行為が「溶け合う」ような街を引き込む建築を提案する。

大きな屋根の建築は街に散在する機能と生活のための機能を集約し、「多様な深さを持つ屋根」と「傾斜地という特徴的な敷地から生まれる空間」によって構成される。この構成により、多中心性を残しつつ空間にゆるやかな全体性を与えることで、人や時間と呼応しながら空間の使われ方が変化していく。とけあう屋根の建築は様々な事柄の境界を薄め、マチの中の新たな環境や関係を生み出し、再び街全体をゆるやかに繋ぎ合わせていく。

Issue 造成による街の分断



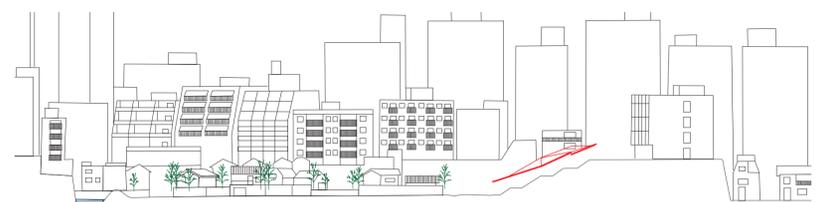
造成によって上下を断絶するのではなく、傾斜に沿うように造成することで周辺との連続性を生み出すことを考えたい。

Site 東京都新宿区 荒木町



5つの階段と1つの坂がつくる窪地が荒木町の特徴。窪地の特性である囲われた空間性を尊重しつつ、傾斜に沿った造成を行うことで、空間的に分断していた場所を繋ぎ、荒木町の玄関として多くの人がとが「集う」風景を提案する。

スリパチの地形を持つ荒木町



荒木町 断面図

■ 緩やかにつながるとけあう屋根

壁で仕切るのではなく屋根から考えることで、視線が抜け周辺との連続性を構築する。屋根の深さにより場を区切る。

■ 地形にとけあう形態

現状
提案

大きな建築を立てるための造成に対して、小さな段差の集積によって考える。マチのスケールに合わせた計画とする。

■ 地域の動線としての建築

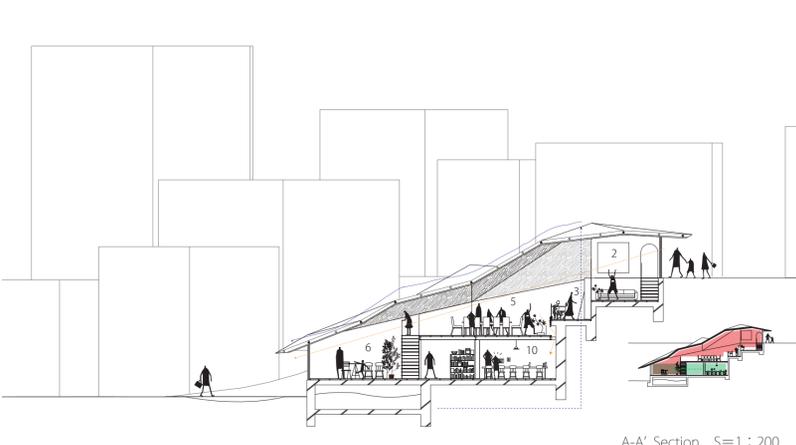
既存の地形のレベル（坂、階段の踊り場）に合わせて内部の床の高さを決定する。様々な方向からのアクセスができる。

■ 1枚屋根と段差による空間的分節

屋根の下への一体感による全体性と多様な屋根の深さ、平面の段差の計画によって多様な行為に対応する空間を提案する。

■ マチを拡張する建築

敷地は荒木町。マチのための機能、生活のための機能を内包する。1つ屋根の下に集約することで新たな関係を生み出す。



空間の使われ方

街のイベントで屋根の下空間全体が1つの大空間として使われる
アーティストの発表の場として交流スペースと貸しオフィスとラウンジが連続して使われる
地域図書を利用した読み聞かせやお話会の際、ラウンジまで広がる

1 インフォメーション
2 多目的ロビー
3 情報ラボ
4 ワークスペース 市民活動
5 交流ラウンジ 待合
6 オフィ斯拉ウンジ
7 地域図書
8 事務室
9 倉庫
10 貸しオフィス

Program: 地域センター
マチのための機能
貸しオフィス
荒木町の飲食店との関係を持つ待合の空間
+
生活のための機能
集会所 情報ラボ 地域図書 ワークスペース

既存の階段と呼応するように床のレベルを設定し、急な上り階段（既存）に対して緩やかな上り階段（提案）としての機能を内包する。

PLAN +GL4600 S=1:400
PLAN +GL1800 S=1:400
Plan S=1:200

